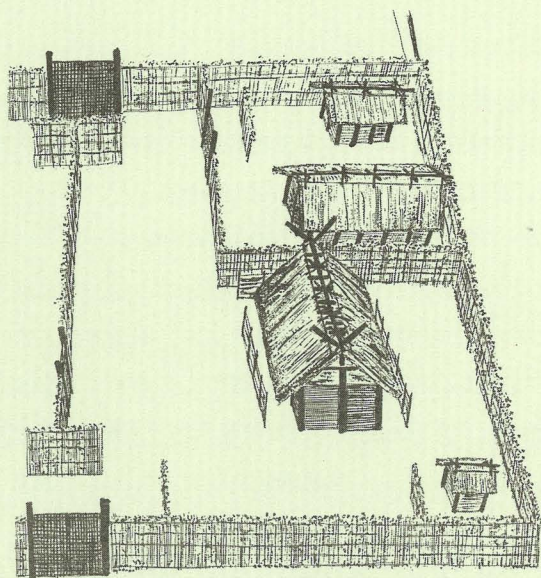


昭和60
年 度 平城宮跡発掘調査部
発掘調査概報



1986

奈良国立文化財研究所

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和60年度に行なった平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は、各現場の発掘担当者が行なった。
2. 下記の発掘調査については、別途報告書が刊行されるので、本書には収録していない。

左京九条三坊十坪 (第166次調査)

左京二条六坊十一・十三坪 (第164-25次調査)

また下記の発掘調査については本書に概要を収録したが、別途報告書が刊行される予定であり、詳細はそれを参照されたい。

右京八条一坊十三・十四坪 (第168次調査)

3. 遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合は平城方位に基づいた座標値、平城京内遺構の場合は国土方眼座標値である。平城方位とは、内裏内郭をめぐる築地回廊北面の北雨落溝の方位に基づくもので(『平城宮発掘調査報告 XII』P29参照)、宮内に設けられた基準点のうちNo.7(推定第二次大極殿基壇上)を(0, 0)とし、東西南北をEWSNとして正数(単位m)で表示する。
4. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付け、番号の前に、SA(築地・塀)、SB(建物)、SC(廊)、SD(溝・濠)、SE(井戸)、SF(道路)、SK(土塋)、SS(足場)、SX(その他)などの分類記号を付して、その遺構を示した。
5. 参考文献として本文中に掲げた書名は、下記の略称で表示した。

『平城報告IV』=『平城宮発掘調査報告IV』

『昭和59年概報』=『昭和59年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』

『年報1985』=『奈良国立文化財研究所年報1985』

目 次

I 平城宮の調査

1 南面大垣の調査	
A 壬生門東地区 第165次	3
B 壬生門西地区 第167次	14
2 推定第二次朝堂院朝庭地区の調査	25
3 推定第一次東朝集殿地区の調査	45
4 大膳職地区東南の調査 第170次	55
5 大膳職地区北方の調査 第164-13次	57
6 馬寮地区北方の調査 第164-21次	58
7 北面大垣の調査 第164-1次	59
8 平城宮北方遺跡の調査 第164-31次	61

II 平城京の調査

1 左京一条二坊（木取山古墳）の調査 第164-6次	64
2 左京一条三坊三坪の調査 第164-22次	65
3 左京二条三坊六坪の調査 第164-12次	66
4 左京四条二坊三坪の調査 第164-11次	67
5 右京一条二坊八坪の調査 I 第164-7次	68
6 右京一条二坊八坪の調査 II 第164-30次	69
7 右京八条一坊十三・十四坪の調査 第168次	70

III 平城京内寺院の調査

1 海竜王寺北辺の調査 I 第164-24次	75
2 海竜王寺北辺の調査 II 第164-14次	76
3 西大寺境内の調査	77
その他の発掘調査一覧	78

図 版 1・2

大嘗宮東半部推定復原図（表紙カット）
推定第二次朝堂院朝庭地区の調査（第
169次）で検出した大嘗宮遺構の推定復
原図である。復原したのはA期の遺構で、
南方から俯瞰した状態を図化した。

昭和60
年 度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1986.5

奈良国立文化財研究所